

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部看護学科

名前 青木 美香

作成日 2022年3月10日

### 【責任】

保健医療学部看護学科に所属し、基礎看護領域に関する教育を担当している。主たる教育活動の担当は、1年・2年に開講する科目（看護学基礎技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱ、看護過程演習Ⅰ・Ⅱ、看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ）である。加えて、4年生の卒業研究の指導を行っている。また、看護学科の役割として、4年生の卒業研究の指導、担任、国家試験対策を行っている。

### 【理念】

教育における理念は以下2つである。

#### 理念1「看護専門職として必要な、主体的に学ぶ姿勢を身につけてほしい」

昨今の医療の発展に伴い、医療者は常に能力開発が求められる。特に看護職専門職は、個々の対象者を理解し、健康問題に対し援助を提供するためには、専門的知識をもとに臨床判断を行う看護実践能力を発揮し、探究し向上していく必要がある。このためには、学生から主体的な学習が行えることが必要である。効果的な学習を行うためには、学生が学習方法を獲得し、気づきや内省の機会を持ち、さらなる学びを深める循環が必要となる。

#### 理念2「自己と他者へ尊重した関わりができる人になってほしい」

自己と他者を理解し、尊重した関わりを行うことは、人としての基本姿勢である。看護専門職は、対象者の健康に寄与する職業であり、個々の対象者を思い理解し、気づかう能力が重要となる。他者理解は、自己を認識し、自己と他者の違いを理解することが前提であるため、自分と他者を理解し、他者の思いを理解できる学習を促したい。

### 【方針・方法】

2つの理念に対応する、方針1「自己学習を促す」、方針2「看護への興味を持てる機会をつくる」、方針3「学生の気づきや内省の機会をつくる」、方針4「学生が自己理解を深められる機会をつくる」、方針5「他者を理解し、尊重して関わられるよう教授する」とする。以下に方針と方法を示す。

#### 方針1「自己学習を促す」

#### 方針2「看護への興味を持てる機会をつくる」

方法1：单元ごとの事前・事後学習課題を提供する。

方法2：定期的に小テストの開催を行う。

方法3：教員の経験した臨地の事例等に触れ、看護実践の様子を紹介する。

#### 方針3「学生の気づきや内省の機会をつくる」

方法1：調べ方、記述の方法を授業で行い、方法が習得できた段階で自己学習へと移行する。

- 方法2：授業開始時に、学生からの前回の授業のコメントおよび質問を紹介し、フィードバックする。
- 方法3：授業中に学生が発言する機会を作る。
- 方法4：事前・事後課題は、フィードバックコメントを記載し、課題提出後の次の授業で返却する。
- 方法5：教科書や資料は、授業中に学生と共にどのように読み込むか確認し、徐々に自己学習へ移行する。
- 方法6：効果的な学習方法を取り入れている好事例の学生を紹介する。
- 方法7：授業の学習課題において、課題の取り組みについての振り返りを記述する機会を作る。
- 方法8：学生がいつでも質問しやすい環境と態度で関わる。

#### **方針4「学生が自己理解を深められる機会をつくる」**

#### **方針5「他者を理解し、尊重して関わられるよう教授する」**

- 方法1：学生が自身の理解を深められる内容の、授業資料や課題を提示する。
- 方法2：演習や実習において、対象者への思いを推察し関わる機会を作る。  
(疑似体験を含める)
- 方法3：授業で臨床の事例について触れる。

#### **【成果・評価】**

授業アンケート結果では、回答者のうち、高評価を示す回答が9割であった。また、授業毎の学生の感想では「具体的な説明で理解できた」という内容が多くあった。学習に対する姿勢に関して肯定的なフィードバックであった。

#### **【目標】**

##### **看護専門職の実践能力を習得するための教授活動が行える**

- ・主体的な学習行動が定着するために、反転授業を取り入れた授業計画を行う。研修に参加し、知識・スキルを習得する。
- ・多方向、双方向の授業を開催できるように、アクティブラーニングを取り入れた授業計画を立案する。
- ・教員自身が臨地の看護師との意見交換、共同学習を継続し、常に臨地と乖離のない教育を検討する。
- ・教員自身の看護実践能力が維持できるよう、定期的に臨地へ看護実践を見学、演習に参加する。